

## 知ってほしい、貴重な湿原

多古町と横芝光町の境界で栗山川の中流部に位置する「多古光湿原」で6月11日、多古光湿原保全会とまちづくりテラスの会の共催による植物観察会が行われました。

観察会には日本大学理工学部の学生3人を含む20人以上の参加があり、講師の谷城先生の解説を熱心に聴きながら、この時期特有の貴重なノハナショウブやミズドリなどを観察しました。初めて参加した学生たちは「この湿原だけにしかない植物がたくさんあり勉強になりました。私たちが見るとただの“やぶ”だけど分かる人には分かる。奥が深いと感じました」と話してくれました。



## 町民ゴルフ大会

6月9日、時折小雨が舞う曇り空のなか、東京国際空港ゴルフ倶楽部にて第34回多古町民ゴルフ大会が開催され、20代から80代の幅広い年代の170名が腕を競い合いました。また、今年度から町体育協会のゴルフ部に新たな顔が加わりました。平成13年当時、公立中学校では画期的であった多古中ゴルフ部の創設時のメンバーです。大会運営に当たっていたメンバーの初々しい姿が印象的でしたが、ゴルフというスポーツを通じ幅広い世代での“繋がり”が感じられました。(結果は、あっぱれもんを参照)



## 唄い継がれる伝統

あじさい祭りが開催された6月12日、文化ホールでは多古町文化協会民謡部による「チャリティー第39回多古町民謡発表会」が行われ、多くの来場者が会場を訪れました。舞台上では、素晴らしい三味線の音色に負けまいと60曲目以上もの力強い唄声ホールに響き渡り、日頃の練習の成果が披露されました。唄い継がれて伝承される“民謡”という日本の伝統を、肌で感じることができ、その唄声にも魅了された発表会となりました。



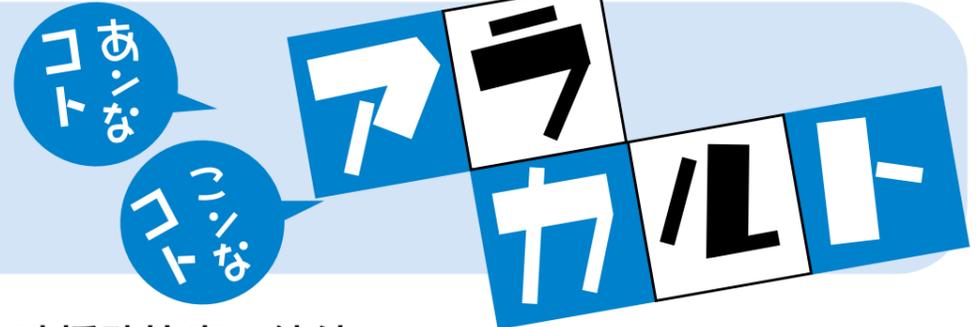
## 多古米はパワーの源!

6月21日、町の水稲生産農家団体「多古町やる気集団」が多古高校に多古米コシヒカリを寄贈しました。同団体は30名の農家から構成され、お米の生産や販売に力を入れています。多古米の食味や品質向上を目的として、お互いに意見交換を行っているなかで、「高校生たちに多古米を食べてもらい、部活動で力を発揮して町を盛り上げてほしい」との話題から寄贈者を募ったところ、およそ4俵が集まりました。

同団体の寺田会長から手渡されたお米を前に、「野球部を中心に運動部の活動で有効に活用させていただきます」と圓城寺校長は話してくれました。



町の出来事や頑張っている皆さんを紹介するアラカルトコーナー。  
このコーナーでは、皆さんからの情報をお待ちしています。  
〒289-2292  
多古町役場企画空港政策課広報係  
☎76-5409



## 友好関係から災害時援助協定の締結へ

6月11日、多古町と青森県田子町との間に「災害時における相互援助協定」が結ばれました。両町は、町名が似ていることから数年前よりイベントなどを通して、観光や産業の交流を深めており、防災面でも助け合える関係に発展することとなりました。大規模災害下では同時に被災する可能性もあることから、同時に被災する可能性が低いという遠距離の優位性により、食料品、生活必需品、応急対策用資器材、医療品などの物的援助や職員の派遣、ボランティアのあっせんなどの人的援助を行うことで、両自治体が相互に協力し、被災者生活の早期安定と被災地の早期復興を図ることを目的としています。

両町とも、県外の自治体と災害時における相互援助協定を結ぶのは初めてですが、ひとたび大規模な災害が発生すると、人・物・情報といった資源が不足し、行政機能が著しく低下することが考えられ、このような場合に備えて、お互いの援助体制を構築しておくことは大変有意義なことです。

また、翌日に開催されたあじさい祭りでは、特産品であるニンニクを使用した加工品などの販売を通じ、田子町を積極的にPRしていました。



## プロの劇団員と一緒に

6月26日、晴天に恵まれるなかで日本寺あじさい祭りが開催されました。本堂内で献花祭が行われ、そのほかにも成功始さんによる弾き語りや三線の演奏、午後からはオーディションで募った6名の児童がお芝居に挑戦した童話劇「あじさい姫と7人のだるまたち」が上演されました。昨年は雨天のため本堂での開催でしたが、今回が初となる屋外ステージでの開催に、150名を超える観覧者で会場はにぎわいをみせました。

劇に参加した中村小2年の平山優空さんは、「はじめは緊張したけど、みんなと協力してお芝居してみたら、とても楽しかったです」と話していました。来年以降の開催も楽しみです。

